

派遣者番号	29K19	氏名	三木 香奈
研究主題 —副主題—	省察と対話を通して行う学級経営に関する研修モデルの開発		
派遣先	東京学芸大学教職大学院	担当教官	岩瀬 直樹
所属校	あきる野市立五日市小学校	校長	中島 靖二

キーワード：学級経営 省察 対話 研修モデル

1 研究の背景（目的）・主題設定の理由等

日本の公立小学校では、ほとんどの場合、学級担任制がとられている。学級崩壊、いじめ、不登校などの問題は児童らが学校生活の中で長時間過ごさなくてはならない学級という集団を舞台として起こる場合がほとんどである。現行の小学校学習指導要領第1章総則第4指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項2(3)では、「日頃から学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深め、生徒指導の充実を図ること」と示されている。平成29年3月公示の小学校学習指導要領第1章総則第4児童の発達の支援 1 児童の発達を支える指導の充実でも、より具体的に教師に求められる指導について示され、学級経営の充実が叫ばれている。先行研究によると、学級経営学という体系化された学問領域の不在、学級経営概念の曖昧さに起因する教師の学級経営観の対立、学級担任制からくる教師の孤立についても指摘されている。これらのことから、まず学級経営に関する概念を整理し、教師が学級経営を学ぶことについて検討していく必要があると考える。

教師の学級経営に関する学びについて東京都では、学級経営に関する研修プログラムの再編・整備が重ねられている。平成22年度からは再任用短時間勤務教員を新人育成教員として、二人担任制によるペアでの教育活動を行いながら、実践的に新規採用教員を育成する学級経営研修という新たな取り組みも開始されている。朝倉(2016)は教師が学級経営について学ぶ際に注意すべき点として、ノウハウの流通における問題点を「学級にかかわる問題と原因の矮小化」「学級経営を担う教師の実践改善と成長機会を奪うこと」の2点を挙げ、学級経営をはじめとした教師の仕事は、すぐに成果が表れにくい不確実な実践であるとし、省察を通じた専門性の向上の機会が重要だとも示している。

これらのことを踏まえ、本研究では日々学級経営を行う教師らが学級経営について省察を行い、他者との対話を通して自らの学級経営を問い直すことを学びと捉え、研修モデルの提案を行う。

2 研究の内容・研究の方法

基礎研究では、日本の学級経営概念と現役教師の学級経営に関する学びの現状について、整理した。

次に、調査研究として、東京学芸大学で行われた免許状更新講習(講師：岩瀬直樹)、組織的に校内研究で学級経営について取り組むA小学校の2事例を取り上げ、教師が省察と対話を通して学び合うために有効だと考えられる視点を抽出した。

実証研究では、抽出した視点から研修モデルを作成し、実践する中でモデルの妥当性を検討した。

3 研究の結果

<基礎研究>

日本の学級経営概念と教師の学級経営に関する学びの現状を整理し、省察から学級を捉え直す重要性について確認した。

<調査研究：先行研究分析>

研修デザインを中原(2014)の示す、①目的の原理、②学習者中心の原理、③多様性と螺旋の原理、④知識と体験の原理、⑤学習者共同体の原理、⑥フィードバックと内省の原理、⑦エンパワメントの原理の7つからなる学習の原理に求めた。

これらを念頭に置き、以下2つの先行実践から、現役教師が省察、対話を通して学び合うために有効だと考えられる視点を抽出した。

<p>先行実践1 ・免許状更新講習「教員としての子ども観、教育観等についての省察」 ・期日：平成29年6月2日 ・場所：東京学芸大学 ・講師：岩瀬直樹（東京学芸大学教職大学院）</p> <p>先行実践2 A小学校校内研究「主体的に生活を創る子供の育成～信頼をベースにした学級づくりを通して～」 ・期日：平成29年7月14日 ・場所：A小学校音楽室 ・講師：岩瀬直樹</p>
--

ノウハウの習得に留まらず、省察を通して他者との対話から自らの学級経営を問い直す研修の開発には、以下の4点が重要であると整理した。

- 安心感をつくる
- 具体的テーマの設定
- 対話の際のルールと方法の確認
- 具体的エピソードの活用

<実証研究：研修の開発と実践>

(1) 研修の概要

学びの原理を念頭に置き、調査研究で抽出した視点を重視し研修会を設計した。研修の概要は以下に示す。

・研修名「学級経営について考えよう」 ・期日：平成29年12月6日 場所：B小学校家庭科準備室 ・目的：省察と対話を通してこれからの学級経営について考える ・特に重視する研修開発の視点：具体的エピソードの活用 ・参加者：B小学校に在籍する計4名の学級担任経験者、B小学校と筆者に利害は無く、D主幹教諭による呼びかけで自主的に集まったD主幹教諭を含む4名。		
	参加者の担任学年	職歴
A教諭	2年生担任	2校目・教職6年目(前職あり)
B教諭	3年生担任	3校目・教職7年目(講師経験あり, 初任者)
C教諭	4年生担任	1校目・教職2年目(前職あり)
D主幹教諭	派遣研修中	3校目・教職14年目

活動と手立て	学びの原理	視点
1. オープニング 学習者へのねぎらいと写真や語りによる自己紹介	②, ⑤	・安心感をつくる
2. 学習方法の契約 一斉講義型の研修は好きかと尋ね、「自分と違う人の考えを①楽しんで②聞いて③話して新しい気づきや知識を得、明日からの学級経営の糧にする」ことをねらいとしていると伝えた	③	
3. 学習内容の契約 「今回の研修会は具体的エピソードを通して自分はどうしているか、他の人の考えも聞いてみよう、正解を見つけないで、振り返ることを目的とする」という趣旨を伝えた	①	・具体的テーマの設定
8. 省察の実践 席替えを具体的エピソードとして、省察と対話を行うワークを行った	④, ③, ⑥	・対話の際のルールと方法の確認 ・具体的エピソードの活用
9. 目的の確認 小学校における学級担任制についてと教師の省察と対話	①	
10. ラップアップ 省察と対話による学級経営の学びの具体的利用シーンを提示、講義終了に対する祝福	⑥, ⑦	

(2) 研修会終了後の参加者感想の考察

研修会実施1週間前に、参加者3名(D主幹教諭を除く)の学級を観察、その後休憩時間にお茶会と称して、学級経営に関する課題を互いに話す場を設けた。その際、明らかとなった各4名の学級経営に関する課題意識と、研修後の感想を照らし合わせながら、実証研究で行った研修会の成果を考察した。本報告書概要では、4名の考察のまとめを掲載する。

教職6年目A教諭：他の学級担任の考えや方法を肯定的に捉える記述をした。

教職7年目B教諭：教師が省察、対話することの意義を感じながらも、さらにこれからの学級経営を考えていく際、同僚と共に学び合うことの難しさについて考え、その具体策を考えていこうとする様子が見える記述をした。

教職2年目C教諭：ノウハウの習得への意味を感じたことを示す記述を残しながら、ノウハウの根底にある教育観や認識の枠組みまでを知ろうとしていることが見える記述を残した。

教職14年目D主幹教諭：同僚で学び合うときに必要な視点について考え始めていることが記述から読み取ることができた。

4 研究の考察

(1) 成果

・学級経営を学ぶ際、ノウハウの習得に留まらず、省察を通して他者との対話から自らの学級経営を問い直すことが重要だということが基礎研究から明らかになった。

・調査研究では、先行実践2事例から省察と対話を通して学級経営を学ぶ際に重要視されている視点を抽出することができた。

・実証研究では、調査研究から抽出した4つの視点を基に研修を開発、実践したことにより、対象者全員が実際の学級を思い出し、他者との対話を通して自らの認識枠組みを問い直す経験をしたことを表すことを感想として述べた。

(2) 課題

・実証研究では、抽出した視点を重視し実践を行ったが対象が4名のみであったため、更なる検討が必要である。

5 今後の展望

本研究を参考に研修会を作成し、実際に行ったという声も聞いている。教師が自主的に学級経営について振り返り、対話を通して学び合う場をつくらうという取組が起こってことを願いつつ、自身もミドルリーダーとして共に学び合える場を提案していくことを目指す。